

2002年4月から学校週完全五日制がスタートした。と同時に、小学校で土曜日の放課後、合唱や合奏等の活動を行うことが、学校独自では困難になった。合唱団やスクールバンドがある小学校にとっては、これは今までの活動を見直さなければならない、大きな出来事であった。

しかしよい方向に考えれば、学校週完全五日制に伴い、学校をもっと地域に開かれたものにし、学校の設備を利用しながら地域の人材をも生かして、社会教育としての音楽活動を行っていくような形を土曜日に取っていく可能性が広がったとも考えられる。

私個人としては、このような考え方に沿って、土曜日の勤務がなくなる小学校教員が中心になり、学校の楽器や設備を借りて、地域に開かれたジュニアオーケストラを設立・運営する計画を立ててみるきっかけになった出来事だった。集団で行う音楽活動、すなわち、合唱・合奏等の多大な教育効果は広く知られるところでもある。社会教育のひとつの形態として、児童生徒の健全育成を目的とする活動にするとともに、地域の音楽文化に貢献できる可能性をも探りたいと考えた。

地元小学校の校長先生や、音楽の有識者等と相談し、結果的に「鶴岡ジュニアオーケストラ」の設立を計画するに至った。オーケストラとしたのは、金管バンドや吹奏楽の響きは児童にとって身近なものであるのも、音楽の幅という点でもっと高いものを経験させたいという願いからである。また私の経験上、バイオリンなどの弦楽器は、トランペットやフルート等の管楽器に比べると児童にとっては音が出しやすく、合奏には参加しやすい楽器であることも理由の一つである。

平成14年度は、私の住んでいる区域の小学校（鶴岡市立朝陽第四小学校）の4年生～6年生児童にのみ募集要項を出し、入会を募った。練習会場は、学区のコミュニティセンターを使用させていただいた。4月時点で児童数15名、指導者数5名。活動の一番の問題は、楽器の確保だった。木管楽器は指導者の

ものを使わせ、金管楽器は朝陽第四小学校から児童に貸し出していただいた。バイオリンは私の勤務校であった朝陽第二小学校の7器を借用し、金曜の退勤時に車に積み込み月曜の朝学校に返すということ每周繰り返すことによってなんとか対応した。

平成15年度は鶴岡市のナンバースクール（鶴岡市立朝陽第一小学校から鶴岡市立朝陽第六小学校）全てに募集し、児童生徒数29名、指導者数16名になった。楽器の不足は、「日本学術振興会」の研究費補助金をいただくことによって解決した。

平成16年度は児童生徒数31名、指導者数24名とな

## バリューサイト VALUE SIGHT

# 初心者からベテランまで みんなで心を合わせて演奏 鶴岡フィルハーモニー管弦楽団

メンバーは小学校2年生から65歳までという幅広い年齢構成になっている「鶴岡フィルハーモニー管弦楽団」。その活動は、単に音楽活動にとどまらず、停滞してきたと言われる地域教育の活性化にもつながっている。立ち上げから初演奏までの取り組みを紹介する。

り、公益信託荘内銀行ふるさと創造基金をいただいで活動を続けることができた。

平成17年度は鶴岡市全ての小中学校に募集を広げ、児童生徒数49名、指導者数28名で進めてきた。児童生徒にとっての活動の目標は、「鶴岡ジュニアオーケストラコンサート」の成功である。毎年、コンサート

に合奏だけでなく、6年生のソロやアンサンブルをプログラムに加えていたが、「指導者演奏」も必ずいれていた。平成17年度は、指導者も30人近くになったこ



「第3回鶴岡ジュニアオーケストラコンサート」の中での初演奏

ともあり、「指導者演奏」ではなく、「鶴岡フィルハーモニー管弦楽団」とでも銘打ち、オーケストラのクラシック曲の演奏をしてみようかと、冗談半分に私が提案したのが、ことの始まりである。

庄内には「酒田フィルハーモニー管弦楽団」というアマチュアの市民オーケストラが昔から活動を続けており、その団員4名が鶴岡ジュニアオーケストラの指導者も兼ねている。その方たちが中心になって、曲を考え、指導し、演奏を支えてくれた。鶴岡フィルハーモニー管弦楽団設立の最大の功労者は、その4名、斎藤良徳さん、志藤彰さん、佐藤麻衣子

# 庄内



鶴岡フィルハーモニー  
管弦楽団 事務局長

深澤 康之

さん、榎本美由紀さんである。

次の功労者は、他の指導者の皆さんである。鶴岡ジュニアオーケストラの指導者は現時点で28名と普通予想できる数よりずっと多い。その内、小学校の教職員は退職者も含めて12名。そして鶴岡ジュニアオーケストラの活動方針である「親子で楽しめるオーケストラ」が表しているように、親子での参加も多い。子どもと一緒に楽器を始めませんか、というお願いに答えてくださった方は13名もおり、これらの方々が鶴岡フィルハーモニー管弦楽団の中核を成している。

ただそれだけでは鶴岡フィルハーモニー管弦楽団は結成されなかった。楽器を初めて3年目か、もしくはそれと同等の演奏能力を持つという入団資格に当てはまる児童生徒が34人も参加してくれた。これ

は鶴岡ジュニアオーケストラの児童生徒だけでなく、その卒業生や、私の勤務校であった鶴岡市立朝陽第二小学校のスクールバンド児童も入っている。

総勢63名（内2名は当日都合で欠席）のフルオーケストラが初演奏したのは、平成18年2月19日の「第3回鶴岡ジュニアオーケストラコンサート」の第3部の最初である。曲目は、チャイコフスキー作曲、バレエ音楽「白鳥の湖」より「情景」。

鶴岡で初めての市民オーケストラによる演奏は反響を呼び、山形新聞や山形放送のラジオ番組、NHKのテレビ番組の取材も受け、演奏会前後は大忙しだった。鶴岡フィルハーモニー管弦楽団がこんなにも反響を呼んだのは、大人だけの楽団ではなく、小学2年生から65歳の年配の方までという幅広い年齢構成になっていることがあげられる。鶴岡ジュニアオーケストラを母体としているため、その成り立ちから、「子どもたちの社会教育としての場であることを大事にしよう。」という精神が根底にあるからである。

経験豊かな大人たちが、楽器を初めて数年の子どもたちの面倒を見、一緒に演奏することによって、子どもたちが安心して伸び伸びと活動し、みんなで心合わせて演奏する音楽の楽しさを体験していく。このような活動が、停滞してきたと言われる「地域の教育」を再び活性化し、子どもたちの健全育成の機会を増やしていくことができる一つの試みと言えるのではないだろうか。

活動が始まってからまだ4年が過ぎたところではあるが、鶴岡フィルハーモニー管弦楽団の関係者を加え、100名近くの人間がこの社会教育活動のもとに集まったことを考えると、オーケストラ活動が地域の教育に大きな成果を残す可能性を期待するところである。今後の鶴岡ジュニアオーケストラと鶴岡フィルハーモニー管弦楽団の活動が、この鶴岡の地に根付き、皆様の理解と協力をいただきながら、いつまでも続くように願ってやまない。

## ■ 深澤 康之（ふかさわ・やすゆき）

鶴岡市立上郷小学校教諭。

1958年11月 山形県長井市生まれ。

鶴岡ジュニアオーケストラ 指導者・事務局代表

鶴岡市管弦楽社会教育連盟 事務局長

鶴岡フィルハーモニー管弦楽団 事務局長

〒997-0832 鶴岡市青柳町35-26

TEL 0235-22-9484